

拡がれ水産サポーター

—かき養殖体験学習を通じて—

松島町漁業青年研究会
副会長 佐藤 隆行

1. 地域と漁業の概況

私達が住んでいる松島町は、東北で唯一の政令都市である仙台市の東方に位置している。大小 260余りの島々が点在する松島湾は、古くから日本三景の一つとして数えられており、毎年全国から 500万人以上の観光客が訪れる他、海釣りに訪れる人も多く、湾内で行われる「はぜ釣り」は秋の風物詩として有名である。(図1) また、静穏な松島湾では、古くからノリとカキ養殖が行われてきた。

私達が所属する松島町漁協の組合員は 255名で、カキ養殖を主体に漁業生産を行っており、全生産金額の80%を占めている。(図2)

2. 研究グループの組織と運営

私達の研究会は、昭和33年に発足し、現在の会員数は23名である。会長、副会長、会計、監事の他、事業別に部長と班長をおいて運営している。主な活動は、種がき幼生分布調査やガサミ等の放流である。また、かき祭りへの参画やかき養殖体験学習等を通じ、地域活性化にも会員一致協力して取組んでいる。

3. 研究・実践活動課題選定の動機

私達の研究会では、定期的に役員会等を開催しているが、以前から次のような素朴な疑問や意見が会員から出されていた。それは、「水産業や松島特産のカキのことを知っている子供が少ないのではないか。」、「自分の住んでいる町のことを知っている小学生が少ないのではないか。」、「子供達に、カキ・海を通じて地域のことを知ってもらうため、何かできないだろうか。」というものであった。こうした意見について、会員間でさらに話合ったところ、①子供達が意外に水産物を食べていないこと。②町内の内陸部の子供達は、海に接する機会が少ないこと。③養殖体験を行った場合、参加した子供達が松島町の水産を他の人に紹介したり、松島町という「ふるさと」を大切に思うことにも役立つのではないか。④こうした体験が、水産物への親しみとなり、消費拡大にも繋がるのではないか。⑤何よりも、私達のことを良く知ってもらえる良い機会ではないか。という5項目に意見が集約された。

そこで、「カキ養殖体験学習を是非やってみよう!」という結論に達し、平成2年度から具体的に取り組むことになった。取組みも9年目を迎えたが、交流の輪の拡がりという着実な成果がみられていることから、今回、ここに紹介する。

4. 研究・実践活動状況及び効果

(1) 海を知らない内陸部の小学生に「かき養殖体験学習」を実施中！

①研究会単独事業から町が実施する生涯学習事業へ発展

カキ養殖体験学習は、はじめ、町内の内陸部の小学生を対象に5月と11月の年2回実施することでスタートした。カキの1年間の作業スケジュールを、①原盤作成、②種ガキ採苗、③筏への垂下、④収穫等、主な工程に分け、それらを実際に体験してもらうこと。また、事故防止対策、視察場所、役割分担等についても計画書に取りまとめた。それを、松島町立第4小学校に持ち込み、具体的な提案を行ったところ、校長先生が大いに関心を示され、早速実施することになった。

まず、5月に、宮城県の水産業について、種がきの原盤作成と挟み込み作業、筏への垂下作業等を体験し、11月に、カキむき作業見学、カキ収穫とカキむき体験、焼きガキ体験等を実施している。(図3・4)当初は手探りの取組みであったが、今では会員も慣れ、スムーズに行事をこなしている。

この体験学習を通じ毎回感じることは、子供達が、かき養殖や潮の満ち引き、船の種類等、海のことや船のことを意外に知らないこと。また、初めての体験に子供達が目を輝かせ、生き生きとしていること。そして、何よりも、子供達が「また来たい。」といってくれることである。私達もこうした子供達の反応が大変嬉しく、やって良かったと感じている。

私達の取組みは、町の広報誌等を通じ町内に紹介され、今度は小学生を持つ親から「町内の全小学校の5・6年生を対象に実施してほしい。」との要望が多く出されるようになった。このため、平成10年度からは、町の生涯学習事業「松島町ウィークエンドサークル活動推進事業(わんぱくランド)」の一つとして実施することになり、さらには、隣町である鹿島台町の小学校へも拡大した。参加人数も当初の20人程度から80人程度に増加している。このように、私達の取組みは次第に大きな広がりとなった。(図5)

②カキ養殖体験が「山形県朝日村立大綱小学校の修学旅行コース」となる！

月山の西側に、山形県朝日村立大綱小学校という児童数が数十名の小さな小学校がある。(図6)平成8年に同校の6年生の修学旅行の下見のため、先生が松島を訪れた。その時に乗車した町内のタクシーの運転手さんとの会話から、思わぬ展開が生まれた。

運転手さんの話は、「松島は景色も有名だけれど、カキも有名だよ。漁協研究会が小学生を対象にカキ養殖体験を実施しているよ。」というものであった。これを聞いた先生は、早速、その足で漁協を訪れた。漁協で体験学習の内容を聞き、「是非、修学旅行コースに組み込みたい。」との話になったものである。私達研究会でも、早速、「引き受けましょう。」との結論に達し、以後、継続実施している。

この体験学習では、宮城の水産業について、カキ養殖について、そして、会員の漁船を使用し、養殖施設を見学しながら松島湾を島巡りするといった内容で実施している。修学旅行後に送られてきた感想文をみると、大多数の子供が海や船に初めて接したことは言うまでもないが、①「とりたてのカニを初めて食べて感激した。」、②「カキ養殖やカキの生態を知った。」、③「体験学習が良い思い出になった。」、④「今後の仕事への激励」、⑤「山が重要であることを知った。」等と感想を述べている。子供達の修学旅行での体験が、水産業への親しみに繋がってくれば良いなと考えている。(図7)

(2) カキ養殖体験が森林組合との異業種交流へと発展

平成9年度には、さらに、松島町の北部に位置する大崎森林組合との異業種交流へと拡大した。

「森は海の恋人」の活動でも有名になっているが、水産（海）と森林（山）は切ってもきれない関係にある。「山は木を育み、水は地下に浸透し、木の生み出す栄養分を吸収し、川を下り、やがて海へと流れる。」品質の良いカキ等を生産するためには、豊かな山と、綺麗でかつ栄養に富んだ河川水が必要であるということである。

私達の研究会と森林組合とが、こうした考え方を基本として、互いの産業を理解しながら、一体となり環境保全に取り組む活動へと発展したのである。これまで森林組合を4回訪問し、木工教室、山桜や樺等の移植体験を行い、さらに、昨年移植した場所の下草刈りや枝刈り等も体験してきた。足場の不安定な斜面への移植は大変な作業であったが、森林を守るための下草刈りや枝刈りが、移植作業よりも大変きつい作業であるということを身を持って体験することができた。

一方、森林組合は3回松島町を訪れた。その時は、海や河川の清掃、釣り体験、養殖施設の見学、カキを用いた昼食会等を行った。森林組合の人達は、清掃時に回収した空き缶やビニール袋等、ごみの多さに驚いており、川の上流部に住んでいる者としても海の環境保全のため、なお一層力を入れる必要があると感じたようであった。（図8）

5. 波及効果

平成2年度から、町内の内陸部の小学校を対象として実施してきたカキ養殖体験学習は、9年目を迎えた平成10年には、町内全域の小学校のみならず隣町の小学校にも拡大した。また、他県の小学校へも波及することになり、さらには、森林関係者との異業種間交流へも拡大することになった。こうした活動は、子供達や森林関係者等に、水産業や海のことを知ってもらう良い機会となり、年々、その輪が着実に広がっている。

6. 今後の課題や計画と問題点

現在、世界の人口は増加の一途を辿り、世界的に食糧不足になることが懸念されており、輸入に頼っている日本においても例外ではない。国土が狭く、四方を海に囲まれた日本では、水産物が食糧の供給源として、改めて重要視されるのは確実である。

しかし、日本の水産は、今、漁業就業者の減少と後継者不足、輸入水産物の増加、魚価の低迷等により、厳しい状況になっている。今後、水産業が、これまでのように経済合理主義だけで見られた場合、日本の水産は崩壊してしまうのではないかと懸念されている。将来にわたり、水産業を持続的に発展させるためには、「水産業が、安全でかつ、新鮮な食糧を供給している産業である。」ということ、広く国民に理解していただく必要があり、さらには、水産業をともに支えてもらえるように努力しなければならないと考える。このためには、私達が行っているこの活動が極めて重要であると考え、これまでの活動を通じて多くの人々との交流の輪が広がった経験を大事にしながら、今後ともこの活動を継続し、「水産サポーターの輪」を大きく広げていきたいと考えている。

国民とともに歩む水産業、それが将来の水産業の一つの姿ではないかと信じている。

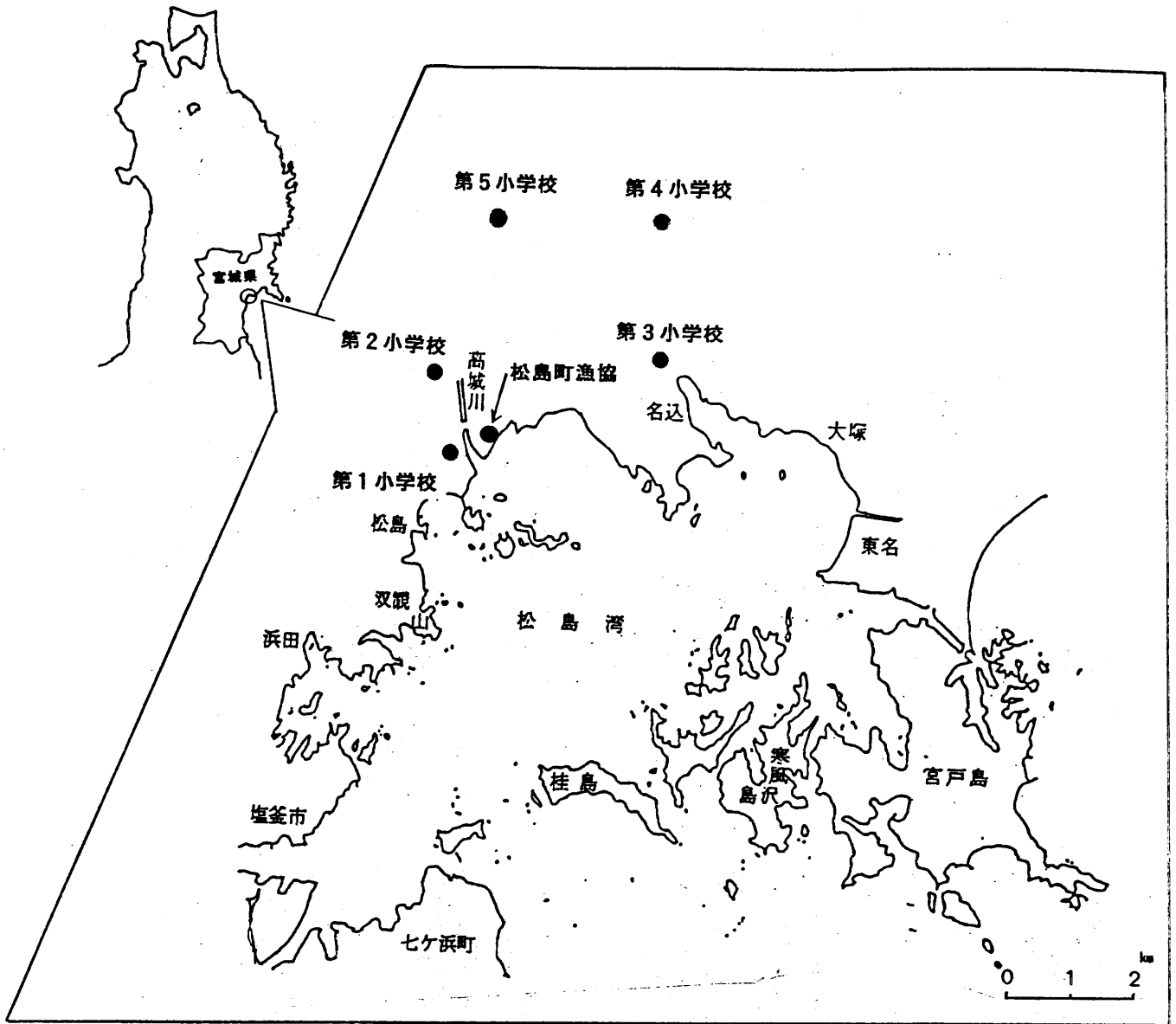


図1：位置図

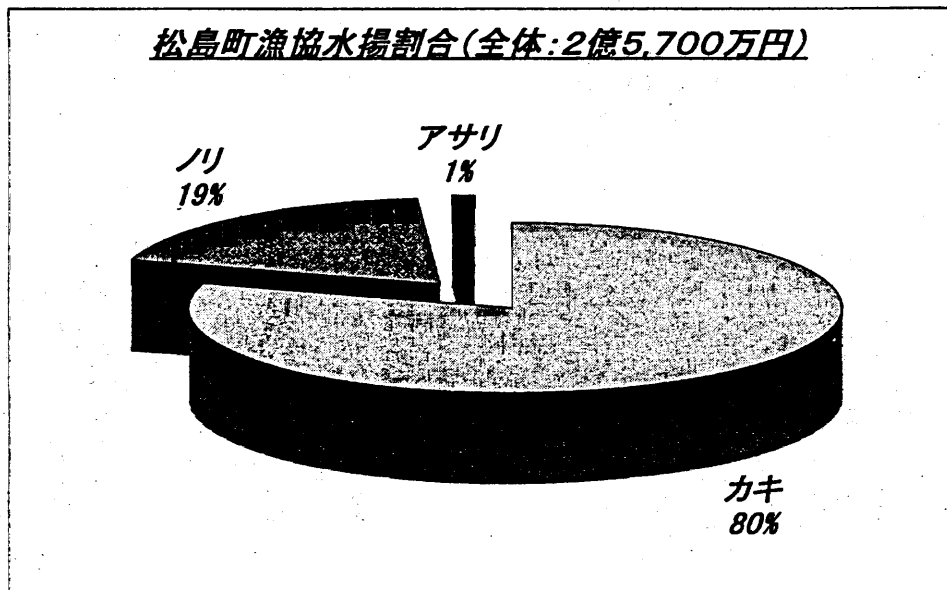
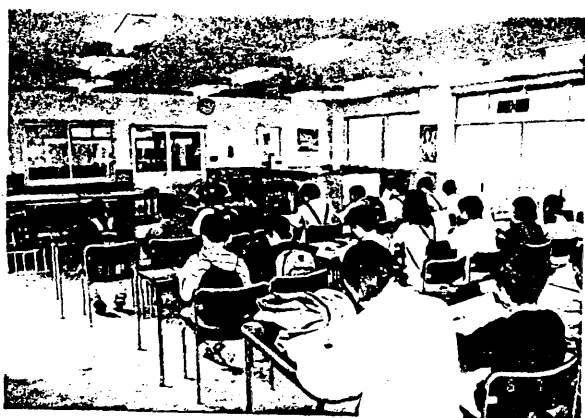


図2：松島町漁協における水揚割合（金額ベース）

1 かき養殖体験学習

○ 5月：種ガキ挟み込み等体験

	8:30	9:00	9:30	10:00	11:30	12:00	12:30	13:00
会	○受入準備	子 ○開校式	○講 義	○陸上学習	○洋上体験	○質 疑	○昼 食	解
員	・役割分担 確認	・挨拶	・宮城の水産業	・種ガキ原盤作成	・原盤垂下作業		・カニ汁	
集		・オリエン テーション	・作業説明	・挟み込み作業				
合								散



①講義（体験学習説明）



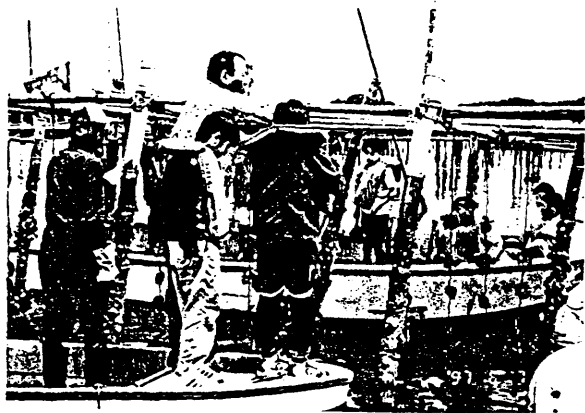
②陸上体験（種ガキ原盤作成）



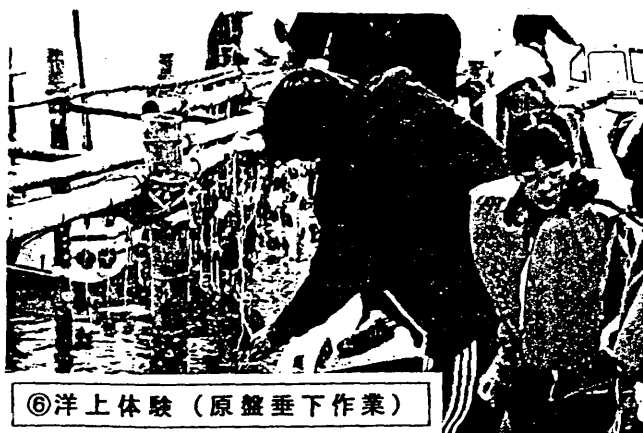
③陸上体験（挟み込み作業）



④陸上体験（挟み込み作業）



⑤洋上体験（原盤垂下作業）



⑥洋上体験（原盤垂下作業）

図3：かき養殖体験学習活動（5月）

○ 1 1 月 : カキむき作業・収穫体験

	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:30	12:00	12:30
会	○受入準備	子 ○開校式	○施設見学	○洋上体験	○陸上体験		○質疑	○屋 食 解
員	・役割分担	供 ・挨拶	・カキ処理場	・カキ収穫	・カキ剥き体験	・焼ガキ		・カキ汁
集	確認	集 ・オリエン	・カキ剥き見学			・試食		
合		合 テーション						散



①開校式（オリエンテーション）



②施設見学（カキ処理場見学）



③洋上体験（カキ収穫）



④陸上体験（カキむき作業）



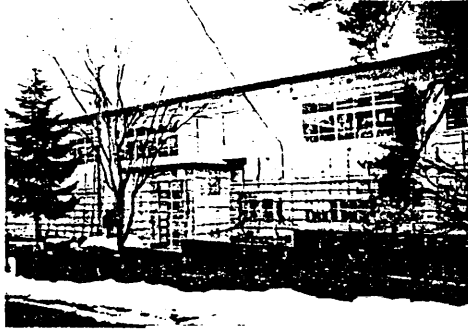
⑤陸上体験（カキむき作業）



⑥陸上体験（焼ガキ試食）

図4：かき養殖体験学習活動（11月）

3 他県の小学校へ拡大



大綱小学校

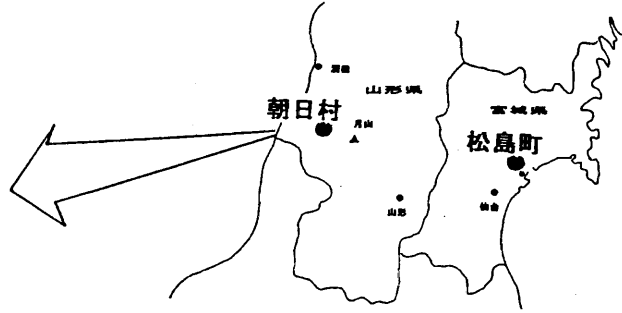


図6：山形県朝日村大綱小学校の位置図



全校児童



修学旅行

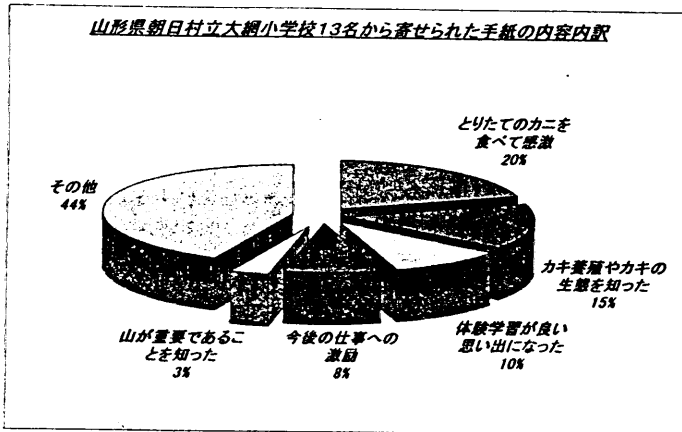


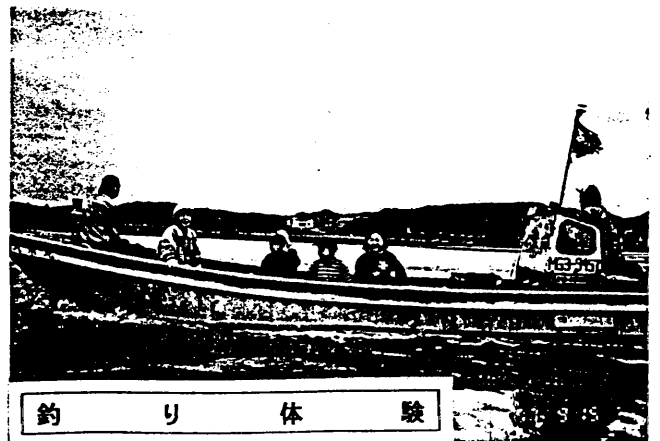
図7：修学旅行後に寄せられた感想文の内容



4 森林関係者へ拡大



海岸・河川清掃



釣り体験

図8：森林組合関係者との交流